

# 十全會雜誌

第(十卷第九號(第百十六號)) 大正四年九月(日發行)

## 原著及實驗

### 「アルチゴン」ノ淋疾ニ對スル 治療的價值

Der therapeutische Wert des  
Arthigons gegen Gonorrhoe.

臺北醫院皮膚科

池 上

豐(四年  
卒業)

一八七九年ナイセル氏ニヨリテ淋疾ノ病原菌發見セラレシ以來其療法モ亦進歩シタリト雖モ一トシテ特效藥アルヲ知ラズ而シテ病原菌タル淋菌ハ其抵抗力強カラズシテ外來ノ障礙ニヨリ容易ニ死滅スルハ既ニ諸家ノ研究セル所ナルガ此抵抗力弱キ淋菌ニ因スル淋疾ガ未ダ其理想的

療法ノ發見セラレザルガ爲メ難治タルハ最モ遺憾トスル所ナリ從來ヨリ試用セラレ居ル療法トシテハ運動ヲ避ケ安靜ヲ守ラシメ食餌療法ヲ取ラシムルト同時ニ殺菌防腐收斂等ノ目的ヲ以テ内服藥ヲ投ジタリ然レドモ是ノミニテ淋疾ヲ全治スルヲ得タランニハ眞ニ理想的タルモ現今ハ唯多少ノ效果ヲ顯ハスノミニテ極メテ稀ニ治癒スルモノ、外ハ殆ド效果ナクシテ他ニ療法ヲ待タザルベカラズ又局所療法トシテ分泌物減少及ビ淋菌撲滅ノ目的ヲ以テ幾多ノ收斂藥殺菌藥ノ洗滌又ハ注入療法應用セラル、モ是等ハ同時ニ粘膜ヲ刺戟スルコト甚シク尙ホ往々是ガ爲メ他ノ續發症ヲ誘フコトアリ故ニモシ粘膜ヲ刺戟セズ害セズシテ其目的ヲ達シ得タランニハ又理想的ト云フベシ尙ホ淋菌ハ極メテ温ニ對シテ抵抗力弱クフインゲル氏ハ攝氏三十九度ニテ十二時間四十度ニハ六時間ニテ死滅ストイヒ又アルクス氏ハ攝氏三十九度三分ニテ十三時間四十度ニテ六時間半四十一度ニテ二時間四分ノ三、四十四

度ニテ十分間、四十五度ニテ即時ニ死スト之レニ基キ熱氣療法溫浴療法ヲ賞用スルモアリ尙ホ坐浴濕布等ノ理學的療法モ試ミラレタルモ一トシテ絶對的價值ナシ

近時ブルツク氏ハ「カヴィブレン」療法ヲ考案シタリ是レ從來ノ局處療法トハ其趣ヲ異ニシ一ノ進歩ヲ示セルモノニシテ同氏ハ如何ナル淋疾ト雖モ本療法ヲ施サバ二三週間位ニテ全治ストセリ又ゾンメル氏ハ之ヲ尿道淋ニ應用シ十四日後ニハ必ズ全治スト稱シタリ吾邦ニ於テモ該療法ハ土肥敎授ニヨリテ始メテ應用セラレ佐谷狩野兩氏ハ尿道淋子宮淋ニ應用シ其實驗成績ヲ報告シテ本劑ハ效果甚ダ偉大ナリト雖モ絶對的效果ヲ顯ハスモノナリト斷言スル能ハズト結論セリ實際ブルツク氏ノ推スル如シトセバ實ニ理想藥トセザルベカラザルモ尙ホ今後幾多ノ實驗ニ徴スベキモノナリト信ズ

近來淋疾治療上最モ主要ナル進歩ヲ示セルヲ「ワクチン」療法トス即チ淋菌ヲ溫熱又ハ化學的藥劑ヲ以テ殺シ之ヲ人體内ニ注射スル方法ニシテ即チ自働的免疫體(ライト氏ノ所謂「オプソニン」説ハ暫ラク措テ問ハズ)ヲ作ラシメ以テ淋菌ヲ撲滅シ疾患ヲ治セントスルニアリ故ニ目的

ヨリ考フルトキハ患者自身ノ分泌物ヨリ培養シテ造リシ自家「ワクチン」ハ其效力最モ大ナルモノナランモ實地上コノ自家「ワクチン」ヲ製スルニ容易ナラズシテ寧ロ多價「ワクチン」ヲ使用スルヲ便トス

「アルチゴン」即チ多價「ゴノコッケンワクチン」ハブルツク氏ニヨリテ唱道セラレ一立方仙米中ニ二千萬ノ淋菌ヲ含有スルモノナリ同氏ハ一九〇九年始メテ「アルチゴン」ノ筋肉内注射ヲ推賞シテ其淋毒性副睪丸炎及ビ關節炎ニハ效果ヲ得タレドモ攝護腺炎、陰門腔炎、子宮頸管加答兒ニハ不確實タリシヲ報告シテ以來今ヤ一般ニ廣ク應用セラレ諸家ノ報告ニ接スルニ至レリ

ブルツク及ゾンメル兩氏ハ其後靜脈内注射ヲ淋疾ノ診斷及治療ノ目的ニテ六〇例ノ患者ニ應用シ診斷ニハ一立方仙米ヲ用キテ一・五度ノ體溫上昇ヲ見ルトキハ淋疾ナリト斷定ヲ與ヘ更ニ治療ニハ食鹽水ニ稀釋シ三乃至四日ニ一回注射シ漸次増量シタリ之ヲ十九例ノ患者ニ應用セシ結果淋毒性副睪丸炎及關節炎ハ腫脹疼痛去リ奏效迅速ニシテ確實ナリ又三例ノ攝護腺炎ニモ良果ヲ有シ九例ノ前部後部尿道淋及ビ攝護腺炎ハ淋菌ノ消失速カニシ

テ且ツ分泌モ止ミタルモ二例ノ前部尿道淋ニハ全ク不結果ニシテ良果ヲ呈セシ攝護腺炎ノ三分ノ一ハ再發シタリト尙ホ稀ニハ頭痛、嘔氣、發汗等ノ副作用アリト雖モ常ニ危險ナク顧慮スルニ足ラズトシテ靜脈内注射ノ賞揚スベキヲ報ジタリアツシユ氏ハ之ニ反シ靜脈内注射ヲ危險ナリトシツノ大量ヲ注射スルトキハ全身反應著シク不安、嘔吐、下痢ヲ來タシ體温モ上昇シ是ガ爲メ活動力ヲ得タル淋菌ハ轉移症ヲ起シ健側ノ副睪丸關節等ニ腫脹疼痛ヲ來タシテ炎症ヲ惹起スル恐レアリト尙ホ氏ハ細心注意シテ少量ノ筋肉内注射ヲ賞用スルヲ附言シタリ而シテ其結果淋毒性關節炎ハ發熱疼痛一時ニ増劇スルモ一日以内ニハ全ク去リ又副睪丸炎ニモ好果ヲ得タリ然レドモ攝護腺炎及尿道淋直腸淋ニハ無效ナリトナシ之ヲ説明シテ粘膜炎層ノ淋疾ニハ「ワクチン」ニヨリテ生ジタル對抗素ガ血管ヲ介シテ達スルコト困難ナレバ效果アル理ナシト謂ヘリフイツセル氏ハ「アルチゴン」注射後ニ來レル腦性疾患ノ一重症例ヲ報ジタリ即チ三回注射後ニ冷感眩暈ヲ覺エ四回後ニハ耳鳴、震顫、瞳孔反應消失、嘔吐ヲ來タシ發熱四十度ニ及ビ顔面筋ニ搖擗ヲ起シ二十五分間後ニ

ハ深キ眠リニ陥レリト而シテ其危險ナルヲ說キタリクラウゼ氏ハ皮下及ビ筋肉内注射ヲ七百例ニ施シ淋毒性副睪丸炎及ビ關節炎ニハ其效力顯著ニテ子宮周圍炎、附屬器炎、頸管加答兒、實質性攝護腺炎ハ之ニ次ギ有效ナルモ尿道淋、直腸淋、精系炎ニハ效果疑ハシク一般ニ淋疾ニ對シ豫防の効果ナク診斷的價值又確實ナラザルモ疾患ヲ局部ニ局限シ蔓延ヲ豫防スルヲ得是ガ爲メニ來ル發熱ノ如キハ顧慮スルニ足ラズト結ベリ

バルダツハ氏ハ二十二例ノ患者ニ靜脈内注射ヲ行ヒタリ氏ノ方法ハ生理的食鹽水ニ二〇％ノ割合ニ稀釋シ〇・一立方仙米ヨリ始メ五回目ニハ一〇立方仙米ニ増量シ隔日ニ反復シ一・五立方仙米乃至二・〇立方仙米ニ達セシメタリ副作用トシテハ發熱ト頭痛アリシノミナリ效果ハ副睪丸炎ニ著シク第二回目ニ炎症疼痛減ジ加フルニ他ノ療法ヨリ勝レルハ其治癒完全ニシテ關節ヲ殘サバリシ點ナリトシ尙ホ三例ノ患者ニ淋菌ヲ他ノ健康部ニ移轉セシメ爲メニ合併症ヲ惹起シタリト報ジタリレウキンスキー氏ハ診斷上ニ靜脈内注射ヲ應用シ淋疾患者ハ〇・一立方仙米ノ「アルチゴン」ニテ一・五度以上ノ體温上昇ヲ來タシ

又治療上ニ副睪丸炎、關節炎ニ應用スルトキハ疼痛及ビ  
 滲潤速ニ去ルモ同時ニ熱氣ヲ行フトキハ一層速カニ消失  
 スト又コーベル氏腺炎、淋毒性結膜炎、攝護腺炎ニハ少  
 シク效果ヲ呈シ通常尿道淋ニハ全ク無效ナリト又ブルツ  
 ク氏ハ靜脈内注射ノ無害ナルヲ説キタルモ氏ハ四例ニ副  
 作用ヲ見タリ爲メニ血行器病衰弱患者ニハ禁ズベシト云  
 ヘリ

吾邦ニ於テモ「アルチゴン」ハ一般ニ應用セラレ從ツテ諸  
 氏ノ報告ニハ乏シカラズ瀨戸氏ハ福岡大學ニ於テ「アル  
 チゴン」ノ皮下及ビ筋肉内注射ノ實驗報告ヲナシテ副睪  
 丸炎特ニ急性性ニ著效ヲ認メ次デ急性淋毒性關節炎ニシ  
 テ攝護腺炎ニハ一定度マデハ有效ナルモ小兒睦炎急性慢  
 性ノ粘膜炎ニハ無效ナリトセリ安藤氏ハ九十三例ノ淋毒  
 性子宮附屬器炎ニ靜脈内注射ヲ應用シ其成績ヲ報ジテ診  
 斷上ノ根據補助法トシテハ大ナル價值ヲ有シ治療上ニテ  
 ハ自覺症ハ頗ル急速ニ消失シ他覺的ニモ亦治癒ヲ望ムベ  
 シ尙ホ該注射ハ無害ニシテ危險症狀ヲ來タサズト述ベ中  
 野(生)氏ハ婦人淋疾ニ靜脈内注射ヲ應用シタルニ副作用  
 トシテハ注射後三十分乃至一時間ニ惡寒、熱發、戰慄ヲ

來タシ稀ニハ嘔吐、關節痛ヲ發スルヲ見タリト發熱ハ三  
 十八度六分乃至四十度六分ニ達シタリ效力ハ子宮周圍  
 炎、淋毒性橫痃ニアリテハ注射後五時間ニシテ疼痛緩解  
 シ子宮淋疾、尿道淋ニテハ注射後二十四時間ノ所見ニヨ  
 レバ局處ノ炎症症狀減退シ分泌物ノ性良好トナリ且ツ減  
 少シタリト又億川、小林兩氏ハ淋菌「ワクチン」ヲ皮下及  
 ビ靜脈内注射トシテ尿道淋ニ應用シ一定ノ效果ヲ收メタ  
 ルヲ報告シテ疼痛、腫脹、膿漏、分泌ノ減少ヲ來タス尙  
 ホ急性性ニ效果顯著ニシテ慢性ノモノニハ無效ナリト結  
 ベリ

以上諸家ノ說ハ紛々トシテ一定スル所ナク其效力及反應  
 モ亦多少ノ差異アレドモ要スルニ「アルチゴン」注射ニ於  
 テハ效果ハ淋毒性副睪丸炎及關節炎ニハ顯著ニシテ子宮  
 附屬器炎、攝護腺炎ニハ尙ホ有效ナルモ淋毒性粘膜炎ニ  
 ハ效果ヲ奏スルコト少キモノ、中ニモ急性性ニハ稍々見  
 ルベク慢性性ニハ絶對ニ無效ナルモノ、如シ反應モ多少  
 ハ免レズ殊ニ靜脈内注射ニテハ著シキモ左程顧慮スルニ  
 足ラズ中ニハ稀ニ淋菌ノ轉移症ヲ來タシ健康部ニ病竈ヲ  
 發スルニ至ラシムル危險ヲ伴フコトナキニシモアラザル

ガ如シ

余モ昨年度臺北醫院皮膚科ニ於テ「アルチゴン」注射ノ實驗ヲ得タレバ其成績ヲ舉ゲ諸家ノ説ト比較シ結論ヲ下サ

「アルチゴン」筋肉内注射

人名	年齢	病名	注射數	注射量	副作用及合併症	成績
岩佐男	三五	急性尿道炎淋 攝護腺炎	四	一・七	第一回後輕度ノ頭痛全身倦怠	尿道部疼痛消失
陳男	三三	亞急性尿道炎淋 亞急性尿道炎淋	一	〇・一	發熱三七・三度頭痛	不明
上野男	三五	亞急性尿道炎淋 攝護腺炎	三	〇・八	第三回後發熱三八・五度	第二回後副睪丸ノ疼痛腫脹減ジ 第三回後尿ハ透明トナリ淋絲ヲ呈 スルノミ
溜池男	三〇	亞急性尿道炎淋	四	一・四	ナシ	變化ナシ
中川女	一九	急性尿道炎淋	三	〇・七	第三回後子宮附屬炎ヲ併發ス	第二回後尿ハ透明トナレリ
細川男	四八	急性尿道炎淋 膝關節炎	三	〇・七	ナシ	變化ナシ
石塚男	二六	亞急性尿道炎淋	二	〇・三	ナシ	變化ナシ
池田男	二五	慢性尿道炎淋 膝關節炎	三	〇・七	ナシ	第三回後腫脹殆ド消失ス
樽本男	四六	急性尿道炎淋 副睪丸炎	三	〇・七	ナシ	尿ハ透明トナリ淋絲ヲ呈スルノミ
片山男	三五	慢性尿道炎淋	一	〇・一	ナシ	不明
片桐男	二五	急性尿道炎淋	一	〇・一	不明	不明
桂男	二九	急性尿道炎淋	三	〇・八	ナシ	變化ナシ
尾川男	三八	急性尿道炎淋 尿道周圍炎 コーペル氏腺炎	三	〇・八	ナシ	變化ナシ
謝男	三三	急性尿道炎淋	三	〇・八	ナシ	第二回後尿ハ透明トナリタリ
許男	二〇	副睪丸炎	一	〇・一	不明	不明

李男	二〇	亞急性尿道炎	一	〇・一	不明	第一回後關節ハ輕快シ壓痛殆ドナシ
鈴木男	三八	急性尿道炎	八	三・七	ナシ	不明
宇藤男	三〇	急性尿道炎	一	〇・一	不明	不明
楠田男	三二	亞急性尿道炎	四	一・五	ナシ	變化ナシ
松田男	二七	亞急性尿道炎	一	〇・一	ナシ	不明
小木女	二〇	急性子宮淋	一	〇・一	不明	不明
福田男	三四	亞急性尿道炎	四	一・五	ナシ	第一回後副睪丸ノ疼痛腫脹ハ減シ尿道ヨリノ排膿減シタルモ攝護腺ニハ變化ナシ
鈴木男	三二	急性尿道炎	一〇	七・五	毎回三七・五度ヨリ三八度ノ發熱アリ	變化ナシ
大津男	二八	急性尿道炎	七	四・三	第一回後三九度ノ發熱ヲ來タシ後三日ニ左側精系炎ヲ續發シタリ	變化ナシ
小谷男	三六	急性尿道炎	四	一・五	ナシ	第一回後副睪丸ノ疼痛消失ス
小西男	三七	急性尿道炎	三	〇・七	ナシ	變化ナシ
有延男	二三	急性尿道炎	一	〇・一	ナシ	不明
重田男	二六	亞急性尿道炎	一	〇・一	不明	不明
辻男	二四	慢性尿道炎	九	六・五	ナシ	變化ナシ
「アルチゴン」靜脈内注射						
鄭男	四一	急性尿道炎	四	一・三	第一回、第二回ニ三九度、第三回三八度ノ發熱	第一回後關節痛ト腫脹ハ止ミ尿道炎ハ急性症去レリ
林男	二四	慢性尿道炎	五	一・九	第一回後三七・六度ノ發熱アリ	變化ナシ
松尾男	二六	副睪丸炎	三	〇・七	第一回三七・三度、第二回四〇度ノ發熱	第二回後疼痛全ク消失セリ
増子男	二八	急性尿道炎	四	一・五	第三回三八度、第四回後三七・六度ノ發熱ト健側ノ副睪丸炎ヲ惹起ス	第三回後副睪丸ノ疼痛消失ス

楠 男	三八	急性尿道炎 副睪丸炎	五	二・五
渡利 男	二五	慢性尿道炎 攝護腺炎	四	一・五
田村 男	二四	副睪丸炎	二	〇・三
潘 男	四七	亞急性尿道炎 足關節炎	五	二・五
富永 男	二六	亞急性尿道炎	三	〇・七
堀田 男	二五	急性尿道炎 副睪丸炎	九	四・三五
佐賀 男	二七	攝護腺炎	七	三・一五
原田 男	二三	副睪丸炎	八	三・三五
道 男	三二	尿道炎膀胱淋 關節炎 攝護腺炎	四	二・三
荒 男	二六	副睪丸炎 急性尿道炎 攝護腺炎	九(筋内) 四(靜脈内)	五・五 一・五

以上余ノ行ヒタル注射方法ハ筋肉内注射ニテハ臀筋ヲ選  
ビ多クノ患者ハ外來ニテ施シタリ故ニ經過ノ不明ノモノ  
多カリシト注射ノ續行出來ザリシモノアリタルハ遺憾ナ  
リ而シテ注射ハ一週二回宛〇〇一立方仙米ヨリ始メ一〇

第一回後四〇・三度、第二回三  
七・二度、第四回三九・度三ノ發  
熱ト頭痛  
第一回、第二回三八度、第三回二  
三九度ノ發熱  
第一回四〇・三度、第二回三九度  
ノ發熱  
第一回、第二回二三九・五度ノ發  
熱ト惡寒頭痛  
第一回三七・六度ノ發熱  
第六回後三七・五度ノ發熱アリ  
各回三八度ノ發熱  
各回三七度ヨリ三八度ノ發熱アリ  
第二回後發熱三八度嘔吐二回頭  
痛惡心眠感アリ 第三回二七・二  
度ニ熱發シ注射後五分間ニシテ  
患關節ニ烈痛ヲ訴フルコト約三  
時間他ノ關節ニモ疼痛アリ 第四  
回後三八度ニ昇リ嘔氣、嘔吐、  
冷寒、耳鳴アリ尚ホ關節痛、睪丸  
痛ヲ覺エ後、深キ眠ニ陥レリ  
第三回三八・四度ノ發熱第四回  
三九度ニ發熱シ右手腕關節ニ疼  
痛ト腫脹ヲ訴ヘ一時ニテ治セシ  
モ第七回ニ同様ニナレリ  
第一回三八・五度ノ發熱ト共ニ  
膝關節痛ト腿鞘炎ヲ惹起シタル  
モ三日後ニ治シタリ  
變化的ナシ  
第二回後副睪丸ノ壓痛全ク去リ尿  
ハ透明トナレリ  
第一回注射後關節痛ハ頓ニ消失シ  
腫脹モ減ジタリ  
第一回後腫脹疼痛輕快セリ  
第二回後疼痛ハ全ク去レリ  
第一回後疼痛ト腫脹輕快セリ  
變化的ナシ  
第一回後關節痛輕快  
變化的ナシ  
第四回後副睪丸ノ疼痛腫脹消失ス  
第一回後腫脹疼痛輕快セリ  
第二回後疼痛ハ全ク去レリ

立方仙米ニ至ルマデハ倍量ヅ、増加シタリ靜脈内注射モ  
同様ナル方法ニテ増量シ常ニ食鹽水ニ稀釋シテ行ヒタリ  
中ニハ〇・〇五立方仙米ヨリ始メタルモアリ患者ハ總テ  
入院セシメタリ以上ノ表ニ就キ其成績ヲ總括スレバ次ノ

如シ

## 「アルチゴン」筋肉内注射成績

病名	病例	有效	無效	増悪	不明	併症	副作用
急性尿道炎淋	一四	四	八	一	二	一	三
亞急性尿道炎淋	一〇	二	四	一	四	一	二
慢性尿道炎淋	三	一	二	一	一	一	一
尿道周圍炎	一	一	一	一	一	一	一
攝護腺炎	五	一	五	一	一	一	一
コーヘル氏腺炎	一	一	一	一	一	一	一
副睪丸炎	七	三	三	一	一	二	二
關節炎	三	二	一	一	一	一	一
急性子宮淋	一	一	一	一	一	一	一
合計	四五	一一	二五	九	三	一	一

## 「アルチゴン」靜脈内注射成績

病名	病例	有效	無效	増悪	不明	併症	副作用
急性尿道炎淋	五	二	二	一	一	一	四
亞急性尿道炎淋	二	一	二	一	一	一	一
慢性尿道炎淋	二	一	二	一	一	一	一
攝護腺炎	四	一	四	一	一	一	一
副睪丸炎	八	五	一	二	一	二	七
關節炎	三	三	一	一	一	一	三

膀胱炎 一 一 一 一 一 一  
合計 二五 一〇 一二 三 一 三一七

以上ノ成績表ニテハ四十五例ノ筋肉内注射中有効ナルハ一例ニシテ其主ナルモノハ副睪丸炎七例中ノ三、急性尿道炎淋一四例中ノ四、亞急性尿道炎淋一〇例中ノ二、關節炎三例中ノ二ナリ二十五例ノ靜脈内注射中有効ナルハ一例ニシテ副睪丸炎八例中ノ五、急性尿道炎淋五例中ノ二、關節炎三例中ノ全部ナリキ而シテ余ハ筋肉内靜脈内注射共ニ「アルチゴン」ノ外ニ一方ニハ内服藥又ハ理學的療法等ヲトリタレバ效果ヲ呈セシモノ、中ニテモ其「アルチゴン」注射ニテカ將タ他ノ療法ニテカハ斷定シ難ク尙ホ今後幾多ノ實驗ニ依ラザルベカラズ唯淋毒性關節炎ニ於テハ「アルチゴン」注射翌日(殊ニ靜脈内ノモノ)ニ於テ疼痛ハ全ク消失シ腫脹モ漸次減ジ自覺的又ハ他覺的ニ著シキ效果アルヲ認メ「アルチゴン」注射ヲトラザル同病患者ニ比シ著シク治癒ニ差異アルヲ確メ得タリ尙ホ靜脈内注射ニ於テ増悪シタルモノ急性尿道炎淋ニ一例、副睪丸炎ニ二例アリタリ次ニ合併症ヲ續發シタルモノ即チ「アルチゴン」注射ノ爲メ發熱シ活動力ヲ得タル淋菌ガ轉移症ヲ



起シ健康部ニ疾患ヲ惹起シタルモノ筋肉内注射ニテ二名  
即チ患者中川某女ハ急性尿道淋ヨリ子宮附屬器炎ヲ併發  
シ患者大津某男ハ副睪丸炎ヨリ精系炎ヲ發シ又靜脈内注  
射ニテハ三名即チ患者増子ハ急性尿道淋ヨリ副睪丸炎ヲ  
患者道ハ健康關節ニ炎症ヲ患者荒ノ如キハ筋肉内注射ニ  
テ關節炎ヲ併發シ後、靜脈内注射ニテハ關節炎及腱鞘炎  
ヲ惹起シタリ

以上述べシ如ク余ハ筋肉内注射ハ之ヲ外來ニテ行ヒタレ  
バ患者ハ安靜其他ノ注意ヲ缺クコト多ケレバ合併症又多  
少免レズトスルモ靜脈内注射ニアリテハ入院ヲ命ジ安靜  
ヲ守ラシメ防腐的ニ行ヒシニ關セズ多數ノ合併症(一二  
%)ヲ惹起シタリ故ニアツシユ氏ガ稱セシ如ク靜脈内注  
射ハ細心注意シテ(殊ニ急性性症ニ)行フニアラザレバ危險  
アルハ斷言シテ憚ラザルナリ

副作用ハ筋肉内注射四十五例中十一例ニ靜脈内注射二十  
五例中十七例ニ見タリ而シテ前者ハ外來ニテ取リタルニ  
關ラズ其反應少ク且ツ輕キニ反シ靜脈内注射ハ入院ヲ命  
ジ安靜ヲ守ラシメテ行ヒタルニ關ラズ大多數ハ發熱シ中  
ニハ四〇度以上ノ高熱ニ達シタルモアリ其他頭痛、惡寒、

全身倦怠等ヲ見タリ

余又嘗テフィッセル氏ガ報告シタルモノト類似セル腦性  
疾患ナランカト思ハル、一例ヲ見タリ即チ患者道某ニシ  
テ第二回注射ニテ發熱三八度ヲ來シ嘔吐二回、頭痛、惡  
心、眠感アリ第三回後三七・二分ニ熱發シ注射後五分ニ  
シテ患關節ニ烈痛ヲ訴フルコト約三時間他ノ關節ニ疼痛  
腫脹ヲ認メタリ第四回後ニハ三八度ニ上昇シ冷寒ヲ初發  
シ嘔氣次デ嘔吐二回ノ後、耳鳴眩暈ヲ來タシ關節、睪丸  
ニ疼痛ヲ覺エ數時間ニシテ深キ眠ニ入レリ他覺的ニハ顔  
面蒼白ニシテ脈搏ハ平常ニ比シ遅ク弱薄ナレドモ呼吸ニ  
ハ變化ナシ要スルニ筋肉内注射ニテハ反應ハ顧慮スルニ  
足ラザルモ靜脈内注射ニハ副作用強ク時トシテ危險ナル  
コトアリ

### 結 論

一、「アルチゴン」ハ淋疾ニ對シテ絶對的ノ治療的價值ヲ  
有セズ

一、「アルチゴン」ノ效果ハ淋毒性關節炎ニ顯著ニシテ副  
睪丸炎之ニ次ギ急性、亞急性尿道淋ニモ多少效果アル  
ガ如シ

一、筋肉内注射ヨリモ靜脈内注射ニ奏效ヲ呈スルコト多シ然レドモ後者ニテハ稀ニ却テ増悪スルコトモアリ

一、筋肉内注射ニテハ副作用少ク輕キニ反シ靜脈内注射ニテハ大多數ニ副作用ヲ呈シ且ツ強度ナリ

一、靜脈内注射ニテハ急性症ニハ合併症ヲ惹起スルコトモアリ且ツ細心注意シテ行フニアラザレバ危險ナル副作用ヲ來スコトアリ

## 梅毒性大動脈炎ノ病理組織的變化附「プラスマ」細胞現出ノ

意義 (獨逸文) (抄録)

醫學博士 福 士 政 一

著者ハ伯林大學病理學教室ニ於テ同教室ニ來リシ屍體中著明ノ動脈硬變症ヲ呈セルモノ二十二例ト著明ノ梅毒性大動脈炎ノ變化ヲ呈セルモノ七十例ノ肉眼的及ヒ顯微鏡的檢査ヲ施行シ後ニ記セル如キ成績ヲ得タリ

但シ梅毒性大動脈炎ヲ呈セルモノ、内

一、十九例ハ大動脈自己ノ變化ヲ除キ解剖上他ノ臟器等

ニ梅毒性變化ヲ呈セシモノ

二、二十五例ハ大動脈自己ノ變化以外解剖上及臨床上梅毒性變化ヲ呈セシモノ

三、三例ハ所謂 *Meta-syphilitisch* ノモノ

四、二十三例ハ大動脈變化(一部動脈瘤ヲ呈ス)以外ニ他ノ臟器ニ梅毒性變化ヲ呈セス又梅毒ノ既往症ヲ有セサルモノナリ

以上梅毒性變化ヲ呈セル大動脈標本中二十一例ハ余カ之ヲ檢査ヲ開始スル以前ニ於テ己ニ一部ハカイゼルリング氏液中ニ一部ハオルト氏液ニテ固定セシ後七十%「アルコホール」中ニ貯藏セラレシモノニシテ他ハ悉ク屍體ヨリ直ニ新タニ採取セシモノニシテ採取後大動脈ノ各所ニ於ケル標本ハ各再ヒ二分セラレ其一ハ無水「アルコホール」(「プラスマ」細胞染色ニ向ヒテ) 又ハ普通「アルコホール」或ハミユルレル「フォルモール」液ニ固定セラレ他ノ部ハ *Levaditsche Methode* ニ向ヒテ十%「フォルマリ」液ニ固定セラレ大動脈、大動脈弓、下行大動脈ヨリ切除シ又必要ニ應シテ大動脈瓣又ハ肺動脈ト共ニ大動脈ヲ切り取レリ